

## 第 15 回経営者「環境力」大賞 発表会

事務局

2月17日、2022年度経営者「環境力」大賞顕彰式および発表会をホテルグランドヒルズ市ヶ谷にて、オンライン併用で開催いたしました。今月号では受賞者様の発表と、経営者「環境力」クラブ会長の話題提供の概要についてご紹介します。

### 【大賞】

浅沼 晃 氏  
盛岡信用金庫 理事長

#### 「私の環境力～地域と一蓮托生～」

本店を岩手県盛岡市に置く盛岡信用金庫は、明治36年に設立され、今年1月に120年を迎えた全国で5番目に長い歴史を持つ信用金庫です。預金残高は東北地区27金庫中第5位、貸出残高は第4位の規模です。創業の精神である「共存同栄」（地域に根差し、地域と共に発展する）の下、昭和2年に建てられた本店社屋で営業を続けています。



信用金庫とは、相互扶助の精神で組織された非営利の協同組織金融機関です。営業エリア内で個人や中小企業などを取引先としており、地域に根差した営業活動が求められるので、地域の発展なくして金庫の発展なしという「一蓮托生」の考え方で業務に取り組んでいます。

SDGsは様々な社会課題を取り上げていますが、社会が求めるそれら課題の解決に向けて、当金庫も微力ながら、関係自治体、企業、団体と連携を図りながら対応しています。

SDGs活動の中で環境問題への取組も進めており、その一つとして、域内での再生可能

エネルギーを活用した事業の継続的推進・支援があります。当金庫では東日本大震災以前から実施し、「地産地消方式」の環境ビジネスの確立に取り組んでいます。

具体的には、地域に豊富な森林資源を活用した木質バイオマスの推進と、木質バイオマスを使った地域熱供給に必要な蓄熱管理設とエネルギーステーション建設の支援です。これらは、小規模分散型で災害にも強く、新たなビジネスや雇用の創造につながるだけでなく、エネルギー地産地消の実現により、エネルギー代として地域外に流出していた資金を地域内で循環させ、地域の活性化を図ることができ、循環型社会の形成に資するものです。

二つ目は平成24年から令和8年までの15年間で実施する森林整備活動で、地権者十数名の同意を得た民有林での活動となっています。また平成20年からは、八幡平松尾鉦山跡地での植樹・育樹活動も実施しています。

更に本業の金融業では、盛岡広域自治体と連携し「もりおかSDGsファンド」を立ち上げ、社会課題の解決を目指す企業に投資し、経営へのハンズオン支援を行う取組も実施しています。一例として、株式会社盛岡書房が実施する長期入院病児への絵本寄付活動「象と花プロジェクト」への支援があります。マスコミでの報道により活動が広く共感され、取組が広がっているところです。これらの活動は、当金庫だけで行えたわけではなく、地域の様々な法人、個人との連携があつてのこ

とです。

これからも、地域の期待に応え、活力を引き出し、環境と調和した経済の姿を探求したいと考えています。

**尾島 敏也 氏**

**斉藤商事株式会社 代表取締役**

## 『未来を語る企業であるために』

### ～ SDGs の取組とサステナビリティ経営～

当社は創業 58 年、設立 46 年を迎える、企業向けのユニフォーム、スポーツウェア等の製造卸販売を行なう会社です。

顧客のニーズに迅速に対応するため、提案、企画、デザイン、生産から在庫管理まで一括して請け負い、「満足から感動へ、そして感動から感謝へ」を企業理念に、環境・社会・経済の持続可能性の向上を目指した事業活動を行なっています。

大手企業との取引も多い当社は、顧客との信頼関係構築のため 2003 年頃から ISO14001 の取得を目指しましたが、従業員十数名の当社が認証を取得することで、事業規模に関わらず環境保全に貢献できるとのメッセージになると気付きました。2005 年の認証取得後は、電力削減、コピー用紙削減、ごみ廃棄量削減等、自社で取り組める項目での活動を 20 年以上継続しています。

また持続可能な経営に向け、社会から信頼され選ばれ続けるためにも、SDGs のうち 9 つの目標に取り組んでいます。目標 3「全ての人に健康と福祉を」では、廃棄になる製品



のガレージセール収益の全てを日本盲導犬協会に寄付し、同協会で社員の体験研修も実施しました。また目標 11「住み続けられる街づくり」では、月 1 回の清掃活動により地域の環境整備に貢献し、地域社会とのコミュニケーションにも役立っています。目標 4「質の高い教育をみんなに」では、顧客に対し最善の提案ができるよう、現場での体験を通じた社員の能力向上に努め、海外研修も含め社員の挑戦をバックアップしています。目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」では、大手ドラッグストアの要望を機に、性別を意識せず着用できるユニフォームを考案・提供しています。さらに、既存ユニフォームの廃棄には、焼却時に発生する熱を利用するサーマルリサイクルプランを提案し、着用者の環境意識向上に寄与しています。目標 13「気候変動に具体的な対策を」では、福島県での東北大震災復興支援 J クレジットによりカーボンオフセットを実施し、2013 年～ 2022 年で CO<sub>2</sub> 削減約 885 トンを達成しました。排出権付きユニフォームの販売を通じ、顧客とともに世界的な環境問題解決のために行動しています。目標 14「海の豊かさを守ろう」では、サトウキビ由来の原料を使用したバイオマス度 80% 以上の梱包資材を使用し、CO<sub>2</sub> 削減と同時にプラスチックごみ問題にも対応。

当社は、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」を念頭に、顧客の描く未来を、ユニフォームを通じて具体化し、将来の地球環境を考えながら、企業活動を通じて未来を語る会社でありたいと考えています。環境問題への対応が企業価値につながり、サステナブルで安心できる社会の実現にも貢献できると確信しています。

畑元 浩 氏

株式会社スイシン 代表取締役

「今まで利用されずに捨てられていた排温水から「熱エネルギーを回収利用」化石燃料・CO<sub>2</sub>削減で脱炭素推進」

当社は、水とエネルギーを通して循環型社会に貢献することを目指し、群馬県高崎市で1997年に創業しました。水処理の中でも、半導体や液晶パネル製造時に使用する超純水、清涼飲料水・医療用・生産工程等で使用される純水などの用水製造の他、各種工場での排水処理も行って参りました。



温泉や温水を使用する施設の排水処理を行っている中で、ゆで麺機、食器やケースの洗浄機、各種生産設備等で使用した温排水がそのまま排水されていることに気がきました。エネルギーがもったいないと思いました。が、当時は100℃以下の温排水の熱回収を可能にする装置は存在しませんでした。

そこで、これまで捨てられていた温排水の熱を水道水などに移すことでエネルギーを再利用することを思いつきました。熱回収をしたいと考える企業にとっては、メンテナンスが簡単で、燃料費が削減できることがポイントになるため、分解洗浄しやすい熱回収装置「Ricalo<sup>+</sup>」を2016年に自社で開発しました。電力・燃料エネルギーがかからず、ランニングコストも発生せず、ボイラーの燃料費削減、CO<sub>2</sub>削減にもつながる「Ricalo<sup>+</sup>」の設置により、温排水の持つ熱エネルギーの約7割が回収出来ます。現在では食品工場を中心に導入が進んでおり、開発から5年半の間に、

全国で約200台が導入されています。

今後、食品製造業において完全導入が実現すれば約9万台の市場規模が見込まれ、その場合のCO<sub>2</sub>削減量は年間325.92万トンになると試算されます。これは40年杉52,200万本が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>と同等のCO<sub>2</sub>削減になり、食品製造業界全体の14.0%のCO<sub>2</sub>削減を意味します。

当社は「Recalo<sup>+</sup>」の開発により、脱炭素や地球温暖化防止に対し、微力ながら新たな解決策を提案できたと自負しています。今後は、更に「環境力」を経営の中核に据え、熱エネルギー回収利用技術の向上、自社商品ラインナップの充実、水処理事業と熱回収事業の両面からの環境問題へのアプローチ、海外企業での導入推進を進め、化石燃料の使用削減、CO<sub>2</sub>排出量の削減により、地球規模の気候変動リスク低減に寄与できる開発型企業として社会に貢献したいと考えています。

吉本 英代 氏

株式会社ゆいわく 代表取締役

「私の環境力～最小限のエネルギーで

最大限の成果を～」

当社は保険代理店として東京都杉並区、鹿児島県の奄美大島、徳之島に支店を置き、それぞれの地域性を活かした営業活動を展開しています。保険業の他に、電動車椅子の販売や農業法人としても事業を実施し、地域社会と一体となり地域の活性化を目指しています。私が徳之島の出身ですので、徳之島



の方言で人々が助け合いながら作業をするという意味の「ゆいわく」を社名にしました。互いに助け合い、強く結びつくことを大事にしているという意味を込めています。

奄美群島は、奄美大島、喜界島、加計呂麻島、徳之島、沖永良部、与論島により構成されており、昭和28年までは米国統治下にありました。今年には本土復帰70周年の節目を迎えています。

コロナ禍では、2020年4月から徳之島でのリモートマネジメントに挑戦しましたが、思いのほか業績が上がり、奄美大島の代理店との合流も実現しました。私は常々、生産性向上と品質向上を意識し、最小限のエネルギーで最大限の成果を挙げることをモットーにして経営にあたっています。生産性の向上により、人間活動で排出されるCO<sub>2</sub>を最小限に抑えられると考えているからです。例えば、当社は70歳以上の高齢者4名が保険営業に従事していますが、仕事を続けることで自己管理・健康維持ができ、医療費負担軽減、医療行為によるCO<sub>2</sub>排出削減に繋がります。

また顧客本位、生産性向上、品質向上という経営姿勢は脱炭素にも通じると確信しており、保険会社と連携したグリーンイノベーションの取組として、保険契約時の面談のオンライン化等、完全ペーパーレス化を目指しています。東京、奄美、徳之島の3拠点を繋いだ営業活動は地方創生にも役立っています。

さらに徳之島では保険を核とした多角経営を実施。農家の高齢化問題に対し、当社農業事業部が後継者のいない高齢農家に寄り添い、農産物栽培のノウハウを引き継ぎ、畑を借り受け、農作業は若者が担い、高齢者にも可能な限り従事してもらうことで、地方創生、高齢者雇用に貢献しています。また農耕

器具の放置による産業廃棄物化を防ぎ、リユースによりCO<sub>2</sub>排出抑制にもなります。

奄美大島では、島民と島外の家族をデジタルでつなぎ、ふるさと納税の呼びかけや来島者誘導にも寄与しています。東京では、徳之島の農産物を子ども食堂等に寄付し、奄美大島、徳之島についての理解促進に一役買っています。今後も、事業活動で脱炭素を進めながら社会貢献に取り組んでいきたいと考えています。

## 【奨励賞】

中村 慎一郎 氏

株式会社日精ピーアール 代表取締役

当社は、創業88年となる印刷会社です。カタログ、パンフレットなど商業印刷物の製作を主に行っており、本社は東京都千代田区に、印刷工場は足立区に置いています。近年ではウェブ動画制作を始めとしたデジタル媒体事業、イベント運営・出展支援事業、紙以外への印刷を行うノベルティグッズ事業など、顧客ニーズに対応した総合プロモーション企業への転換を図っています。

当社の環境への取組は2007年に遡ります。先代が環境経営の重要性に気付き、当社も本気で取り組まなければ将来はないと確信し、粘り強く社員を説得し、廃液が出ず環境に配慮した印刷方法である「水なし印刷」の取組を始めたのです。技術的に難しく、コストもかかるなど様々な困難を乗



り越え、現在ではすべてを水なし印刷で行っています。水なし印刷機の導入に続き、環境に配慮した FSC 認証紙、揮発性有機化合物を含まない Non-VOC インキの使用、工場での一部グリーン電力使用、カーボンオフセット導入など、その後も環境経営の取組を深化させてきました。

今回の受賞はこれまでの取組への客観的な評価となり、自信と信念を持つことが出来ただけでなく、取組の成果を、数値を用いたエビデンスとして示す必要性に気付くことが出来ました。今後も、更なる高みを目指して環境経営に邁進する所存です。

(文責：事務局)



前段左より：中村氏、畑元氏、尾島氏

後段左より：大場氏（環境カククラブ監査役）、林氏（環境カククラブ会長）、藤村代表、加藤顧問

※大賞受賞の浅沼氏、吉本氏は Zoom で参加されました。



経営者「環境力」大賞は、環境文明 21 が提案している以下の 12 項目に即してご自身の「環境力」を自己評価していただき、その結果と企業経営に関連する資料とヒアリング結果に基づいて大賞受賞者を選考しています。

#### 【21 世紀の社会をリードする経営者の資質】

1. 情報を公開し、公正な競争に率先して取り組む勇氣
2. 100 年先を見通した中長期的な企業価値を設定し、その価値を浸透させる情熱と達成する戦略性
3. 国内外の時代の潮流を洞察し、先取りする力
4. 他社とも協働して、社会に対する責任を果たそうとする意志
5. 地域社会との交流を大切にし、その伝統や文化を尊重する意思
6. 経済と環境を一体化しようとする意志
7. 働くことの価値を認め、自社で働く全ての人々の働く意欲を高める力
8. 事業を大きくしすぎない勇氣
9. 科学を理解し、経営に活かす力
10. 技術やサービスの動向を常に把握し、経営の発展に繋げる力
11. 人知の及ばない大いなるものへの畏敬の念
12. NPO を含む全てのステークホルダーとコミュニケーションをとる力